

2018年3月21日発行

OB会報14号

# 御挨拶

OB会世話人代表

三橋 政信

皆様こんにちは

OB会の皆様には上は80余歳から下は今春の退職予定者まで、実に40名近くに及ぶことになりました。思い起こせば、2011年でしたか。会員の懇親と岐阜生研の支援を目的に発足し、今日まで毎年懇親会で皆様にお会いでき、この間、会員の皆様には玉稿の依頼や岐阜生研への支援等々多大なご支援をいただいてまいりました。誠にありがとうございます。どうか今後ともよろしく願い申し上げます。

今年もぼつぼつ、新年度の懇親会と総会の計画などを立てております。詳細はこの会報に添付の別紙を御覧くださいませ。今年も又、お元気な皆様にお目にかかれまことを、世話人一同心から願っています。

さて、岐阜生研も小所帯ながらも日々着実に研究・実践を積み重ねていくれます。今年正月早々には、東海北陸地区セミナーを主催生研として恵那市で開催、大きな成功をおさめてくれました。詳細は最新の「かがり火」に収録していますのでごらんください。

今、岐阜生研の最もホットな話題は、第61回全生研全国研究大会(2019年度)を岐阜の地で開催しようとしていることです。実現すれば第27回大会以来、実に35年ぶりのことになります。岐阜生研の事務局会議は、深く熱い論議を積み重ね、実現の方途を真剣に探っています。私たちOBも現役の熱い思いに触発され、なんとか応援・実現すべく開催地の選定等々相談に預かっています。まだまだ、現段階では詳しくは申しあげられませんが、5月の懇親会では、ある程度概要のまとまった話ができると思います。いずれにしても、大会の開催には、OB会としても全力で応援していきたいと思っています。どうか、今年もOB会の皆様には、ご支援よろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、来るべき懇親会では、皆様がお元気で子ども達や地域のなかでご活躍、趣味等々の活動に生き甲斐を見出されておられる、そんなお話したくさんうかがえることを楽しみにして筆を置く次第です。 2018年3月

# 会員みなさんの近況

おことわり…掲載は編集の都合上原稿の到着順です

今回は、投稿文がありますので重複して掲載されている人がありますがご了承ください。



## ○稲垣勝義

たった今、東海北陸セミナーから帰ってきたところです。

今回の担当は岐阜、恵那峡のかんぼの宿で行いました。47名の参加、東海北陸も回を重ね今回で42回目歴史の重みと共に子どもの幸せを求めて常に研究を進める全生研の一員であることを改めて思います。

私も教諭として歩み始めて39年目。私が新採で大学生のころからこのセミナーははじまったのかと恵那峡の景色を見ながら思いました。

そして、来年は岐阜の地で第27回に続く全生研全国大会を開催する予定です。あくまでも予定。OB会の方々の知恵と力もおかりしながら成功に導きたいものだと考えています。宜しくお願い致します。

さて、私ですが、定年後は、ゆっくり旅行をしながら次のステップへと考えておりましたが、再任用で働いております。あと1年は再任用として実践をしてみたいと考えております。

## ○桂川清

今回は趣味の一つの鮎釣りについて書きます。

鮎釣りは、夏の約3か月が主なシーズンです。もうかれこれ10年以上続けています、きっかけは保護者で鮎釣りが好きな方に教えてもらったことです、もともと溪流釣りは好きでしたが、鮎釣りは初心者でした。

全国でも有名な馬瀬川という川に出かけます、家から15分ぐらいの山間の清流です。水は澄み飲めるぐらいです、その中に杭のように立っているだけでも清々しい気持ちになります、(本当は「杭のよう」ではあまり釣果は出ません)。

魚釣りは釣れた時の感触、喜びが忘れられないと言われます。

僕も同じです。

食べておいしいというのは僕の場合、当てはまらないようで、去年は約630尾ほど釣りましたが自分が食べたのは1尾です。(釣れた喜びでお腹がふくれます)去年の夏、一日の最高釣果が出ました。58尾です。

嬉しくて嬉しくて夢のようでした。(今もまだその感覚は残っています)。

はじめた頃は、ぽつぽつ釣れて1日が過ぎてゆくというふうでしたが、次第にたくさん釣りたいと思うようになりました。

鮎釣りのビデオ鑑賞、講演会参加、鮎釣り大会の見学、仕掛けも初めは完成品を使っていましたが、今は自分で工夫して作るようになりました。

鮎釣り日記をつけて、どうしたらもっと釣れるかの研究をします。

今は今年の夏に向けての総括中です。

これは全生研で学んだことが生きているのかもしれませんが、鮎釣りをはじめたい人は言ってください。教えてくださいよ、筆が止まらないのでこの辺で



#### ○伊佐治宏美

近頃年のせいか、性分なのか 何事も面倒くさく感じるようになってきました。

でも、今まで通り非常勤の仕事と「楽習ひろば」で子どもたちと共に学び新しいことに挑戦しようと思っはいます。

#### ○生源寺孝浩

ご無沙汰ばかりですみません。

もうほぼ一年前になりますが、2017年2月3日に東大阪市の小学校5年生で「電磁石」の指導計画づくりから授業実践に関わらせてもらえました。久々に子どもの前に立って理科授業をして私が常盤小学校で理科専科をしていたときからの懸案に取り組みました。その懸案というのは、次のようなものです。

当時は6年生で「電磁石」を教えていました。指導の概略は、①磁石と磁石関係のこと。②磁石と鉄の関係のこと。すなわち、磁石のそばで鉄が磁石になるから、その鉄同士は引きつけ合うのだということ。そして、③電磁石を作って、電磁石の性質と働きを見つけよう。このように学んだ後、コイルだけで磁場が出来ることを認識させたいと考えてきました。次のような課題を出します。

「電磁石から鉄芯を抜いてコイルだけにして、コイルに電流を流したらコイルは磁石の働きができるでしょうか」と。

ところが、「コイルには磁石の働きは出来ない」と、多くの子どもたちが言うのです。「鉄芯がな

いと磁石になるものがないから」とか、「鉄芯に電気が流れて電磁石は磁石になるのだから、鉄芯がないとダメ」などです。この意見は、岐阜の子だけではなく、山梨の子も、茨城の子も、堺の子もいうと『理科教室』に報告されています。しかも、8割以上の子が、そういうのです。

この素朴概念を何とか打ち砕きたいと、実際に理科の授業を学級に入らせてもらって行いました。何とかかなりそうな感触はつかめました。そのために新しい教具も開発しました。

ということで、今度またゆっくりと実践報告を聞いてもらえる機会があるといいなと思っています。

来年は喜寿を迎える歳ですが、京都、大阪、神戸の仲間たちと「生き方を支える物理教育研究会」で学び会いながら、まだ授業と子どもの認識にこだわっています。



#### ○上村文隆

(1)来年8月に岐阜で全国大会が予定されています。

常任委員会で検討を重ね、やれる範囲でやろうということになりました。OBもできうる限りを協力しようと動いています。

とりあえず、行政との対応や会場問題についてはOBで責任を持ってやろうと決意しています。

今までの開催県の事務局や、全生研の事務局とも連絡を取っています。

今年の開催県の事務局長の柏木さんとは、地区セミナーでいろいろ意見を聞きました。

現地のためとこれからの全生研のためにどんな大会にしていっていいのか、智慧が必要です。OB会の皆さんの智慧とちからが必要です。ご協力のほどよろしくお願いします。

#### (2)わたしの近況1

今日は地域の体操教室で午前と午後の二部のお世話をしてきました。

転倒防止が一番の狙いなのですが、思う様にならない身体を自覚するだけでも大事なことだと思います。もう一つ、地域のお年寄りと知り合いになり、話をするだけでも楽しい。

そして、やがて私自身の身体が思う様に動かなくなる時のことも考えざるを得ません。

#### (3)わたしの近況2

数学をやっています。圏論という分野の学習をしています。

その成果もまとめてホームページに載せました。教育の分野で圏論を応用するというのは、具体的には矢印を使うことです。なかなか面白いと思うので、興味がある方は見てください。

#### (4)わたしの近況3

教行信証という親鸞さんの書かれた本を読み解いています。読み研で学んだことをフルに活用

してもなかなか読み開けません。たぶんあと3年はかかります。

#### (5)わたしの近況4

古文書を読めるようにしたい。教室に通っています。三橋さんにも教えてもらっています。

#### ○池田憲一

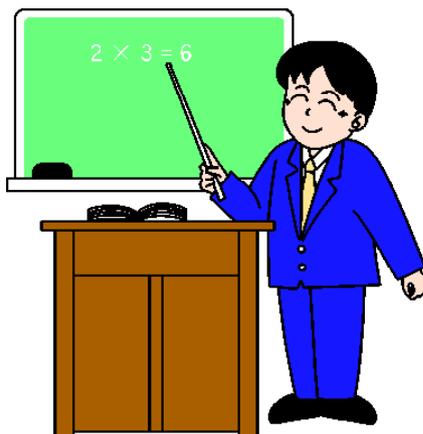
中学校37年、大学10年、合計47年間の教師生活をこの3月で卒業することにしました。

当面は、地域の「九条の会」連絡会の代表となったので忙しく、安倍改憲を阻止するために、3000万署名に取り組んでいます。

2018年は、「明治維新150年」と言われていますが「戊辰戦争150周年」でもあります。

鳥羽伏見の戦いから函館戦争までの各地でイベントが行われるので、それを追っかけて旅をしたいと思っています。そして、ここ数年、取り組んでいる「昭和歌謡碑巡り」に加えて、「寅さんロケ地巡り」を始めたので全国各地を旅することになります。

日常的に、ブログ「もしもの老子」を書いていますので良ければ読んでください。



#### ○田中秀樹

最近身体が不調です。ひじ腰、首が痛くて老眼が進み肺気腫もあまりよくなりません。年が明けたら、葬式が2つ続きました、命のあるかぎり身体を動かし学び続けたいと強く思うこの頃です。

#### ○平井正則

町が建設を進めている「子育て支援総合施設(予算約9億円)」にたいして、進め方と内容の修正を求める運動をしています。

#### ○今枝るり子

いつもでしたらすぐお返事を書いて返信するのですが、今回は若干時間をようしました。といっても何か問題があったり、とても忙しく手というわけではありません。その反対で、毎日何の変哲もなくがんばらずに生きています。

我が身一つの世話をしているうちに一日が暮れてゆく…そんな毎日です。

勿論こんな生活がずっと続けられるとは思っていませんがお知らせするほどの”近況”はないな

あ…と思うと、返信も遅くなりました。

でも、皆様のお元気な様子やご活躍を耳にするとうれしくなりますし、刺激にもなります。

#### ○高木敏治

昨年末、自宅にて大動脈解離を発症し救急車にて病院へ！幸い一命は助かりましたが、現在は自宅にて静養中です。歩行も50mぐらいなら歩けますがそれ以上は無理、現在リハビリ中です。自動車の運転も医師からストップとのこと。当面は自宅でおとなしくしています。残念なことは、3月にイタリア旅行を計画していたのにキャンセルしてしまったこと。リハビリ積み重ね又イタリアに行きたいなあ!!



#### ○安江駿

現在狩猟生活中、今冬イノシシ五頭ゲット本当は六頭ゲットのはずが一頭檻を破って逃走(大きかった?)新しい檻は熊でも OK その檻に最近80kg級が入る。秋はキノコ採り椎茸ヒラタケなめこ(自分の山で)元気に棲息しております。

#### ○岡崎和子

今年、1月27日、28日に、岐阜清流文化プラザで上演された、杉原千畝の物語オペラ「人道の桜」にユダヤ人役の一人として参加しました。

昨年の10月から4カ月かけて練習して、合唱団や社交ダンスサークルでの経験を生かして演じれて、素晴らしい感動的な体験が出来ました。



#### ○岡崎行雄

昨年は、3月「第2回揖斐川町の平和のつどい」や6月の「平和行進」、8月の「長崎原水禁大会」に参加し、ヒバクシャ国際署名の話を地域で広めたりして来ました。

11月の「年金者文化展」の「憲法コーナー」のミサイル防衛の模型作りでは、精力を使い過ぎました。

今年、1月14日「第3回うたごえ喫茶」は30名以上で成功しましたが、毎月の年金者新聞「いぶ

き」の記事の編集に追われ、独居の叔父の生活の気配りをしていたりで、次々と講演や行事があっても、思うように十分に動けないでいます。

#### ○脇田律子

昨年8月の終わりに山内さんをお願いして新婦人で”めざせけん玉の達人”講座を開きました。9月からは月1回集まってけん玉小組を始めました。1回100円の参加費で会場費などまかっています。何と、5年生の男子、けん玉の超達人が参加してくれて我々は”師匠”と呼んで教わりながら毎回盛り上がっていますが、腕の方はなかなか上がりません。膝痛。腰痛と闘いながら脳の活性化をめざして続けています!! …元気にやっております。

#### ○三輪陽子

各務原の放課後デイ(障がい児の学童)に週2日、江南市内の作業所に週一日。大垣の実家(母が一人暮らし)に週1日、近所の娘のところへはおかずを届け、孫の入浴の手伝いと、相変わらず忙しくしています。

その他にも江南のあおむしの会(図書館を考える会)や各務原の特別支援境域充実の会などの活動にも関わっています。

アベ改憲を許さないための3000万人署名も近所の人や知人をお願いしています。

今月、白内障の手術をしました。いろいろなところがわるくなりますね。そんな体とうまく付き合っていきたいです。



# ～子どもたちに学校ではできない楽しい体験活動を～ 「みのかも子ども楽習ひろば」の取り組み紹介

渡辺和彦

退職して4年が過ぎようとしています。現在、私は美濃加茂市役所生涯学習課で、「みのかも子ども楽習ひろば」の関係の仕事をしています。この事業は、私が退職した年に、地域教育推進事業として予算化され始まった取り組みです。

毎週土曜日に、牧野交流センター、生涯学習センター、加茂野交流センターの3教室で開催しています。現在、市内の1年生から3年生までの小学生140名が参加し、午前9時半から11時半まで、学習や様々な体験活動をしています。

活動内容は、前半は国語や算数の学習、後半が体験学習です。教室のそれぞれの学年を担当してくださる先生方は25名ですべて教員のOBです。藤吉栄治先生や福島宣秋先生、伊佐治宏美先生もそのメンバーになっていただいています。そのほかに、体験活動の講師としてお願いしている先生や、地域のサークルの方々があります。学校と違って、カリキュラムもありませんから、講師の裁量で内容を考えてもらっています。私は事務局として全体のとりまとめをしています。丸山善典先生もいっしょに仕事をしています。

写真は、体験活動の一部です。このほかにも、栗きんとんづくり、英語活動、3B体操、絵手紙、和太鼓の講座など、その道の専門家から子どもたちは楽しく学んでいます。



山内貞義先生のけん玉講座です。各教室で年間1回お願いしています。



福島先生には、牧野教室で2年生を担当してもらっていますが、他にも楽しい理科実験講座もお願いしています。毎回、子どもたちが楽しみにしています。



化石採集の専門家、鹿野勘次先生と瑞浪の川床での化石採集体験講座です。



夏の楽しい川遊びは、川で遊ぶ体験が少ない子どもたちには大人気です。市内三和地区の川浦川に入りますが、小規模校の三和小学校の児童とも交流をします。



地元の読み聞かせサークルのいくつかの団体が、年に数回、各教室で、団体の持ち味を出した読み聞かせを行います。



座禅教室は学校では体験できません。加茂郡富加町の齡峯寺の住職に講師をお願いしています。



蜂屋柿を硫黄で燻蒸して干し柿を作ります。一人6個作って、家に持ち帰り天日に干して干し柿にします。

# ゆっくりとじっくりと、自分の気持ちの向く方へ

桂川 清

わたしは就職後、担任した子どもの保護者の祖父に、初めて将棋を教えてもらいました。その後、二十数年経って病気で仕事を辞め、しばらく人と関わることができませんでした。少し元気が出て最初にしたことは、老人ホームで将棋の好きなお年寄りと将棋をすることでした。

今思えば、周りとのかかわりが途切れたように感じられた当時、自分が他者と関わる方法のひとつとして、自然に動けたのが「将棋」だったのかなと思います。

今は長期休暇(春、夏、冬休み)中には、下呂地域の児童館で行う「将棋教室」を担当しています。それぞれの児童館で1日1時間半で3日間行います。それを続けている中で、各児童館が共催して下呂市児童館主催の「下呂市小学生将棋大会」が開催されるようになりました。それは年2回行われ、わたしはその担当もしています。

しばらくして、自宅で子どもたちとマンツーマンの「将棋塾」を行うようになりました。現在数名の参加(おとな1名)です。(この地域では「藤井四段効果」はそれほどないようです)

他には、地域参加型の自主的イベント「森の宝島」で「どうぶつ将棋」のブースを担当しています。一人で多人数への対応はできないので、友達に呼びかけ助けってもらって開催しています。また、市の「生涯学習講座」で一般向けの「将棋入門教室」を行いました。

それから、市の社会福祉協議会の方から聴覚障害者の方との将棋の要請があり、指すようになりました。生まれつき聴覚に障害がある方は、手話がコミュニケーションの手段なので、手話ができないわたしが通じ合うことは難しいですが、身振り、手振りなどで何となく通じます。それに、「棋(将棋)は対話なり」という諺がありますが、相手の指した手から相手の考え方がわかることもあり、少し通じたような気持ちになり嬉しいです。

考えてみれば、わたしはこうしたことを続ける中でお年寄り、子どもたち、聴覚障害の方たちと出会い、前向きに生きる勇気をもらい将棋の楽しさを再確認させてもらっている気がします。

ところで、こうした自分の好きなことを生かした生き方ができるのも、かみさんのおかげだと思っています。そして普段は掃除の苦手な主夫として家事を行う日々です。

ただ、時には今の自分のままでいいのかというような不安が湧いてきます。

それで河田さん(OB会員)に『今の自分は、人のために役立つことができていないのでは・・・』というようなメールをしました。河田さんは「人生の価値は日常の暮らしの中で派生する時々の



「選択」の中で、その人が何を選択し実行したのかで生まれてくる・・・とし、「それでも人生にイエスと言う」(V・E・フランク)と「深い河」(遠藤周作)という本を薦めてくださいました。

ここ数年間、読み書きができなかった(意欲がわかなかつた)自分には、読めないかなとも思っていました。「深い河」を手にとってみました。内容は十分理解できないままですが1回読み終え、2回目を読んでいます。

今は本を読めた自分に驚きつつ、自分の不安への回答をゆっくり探してみようと思っています。

「ゆっくりと、自の気もちの向く方へ」これが今の自分の座右の銘です。



# いつまで？

藤吉栄治

『いつまで続くの？』そんなことをよく聞かれる。1月14日に65歳になった現在もひよんなことから常勤講師をしている。

働く第一の理由は生活のためである。我が家の場合ずっと一馬力でやってきたので貯えもなく退職金など様々な借金返済や家の修理・利ホームや娘夫婦の新築援助などで今や風前の灯火である。年金だけではとてもでないが「余裕ある八暮らし」などできるはずもない。近頃は年金機構や共済組合から様々な書類が送られいついつまでに必要書類を記載し返送せよとやかましい。訳の分からぬ内容ばかりで年金事務所にたびたび足を運ばなくてはならない。満額もらえるなっただがとても働かなくてもよい年金額とは思えない。いつまで働くのと問われれば「死ぬまで働かざるを得ない」と応えるしかない。

最も老後に何の不安もなくなるような施策が実行される政府が誕生すれば、もちろんと楽な生き方につながるだろうと期待している、まあ、そうは言うものの現在の働きについての思いや精神的負荷は現役時代のそれとはかなり違う。

今年度は常勤講師なので毎日8時15分から4時45分までの勤務で現職と何ら変わらない、毎日毎日5時間の算数を教えている。算数ばかりは手を抜いて教えることはできないので、1日が終わるとぐったりと疲れる。昼休みはよく意識不明に陥ることがある。

しかし、子どもと接するのは楽しい、担任のわずらわしさが？がない気分もある。

『もう二度と学校には勤める気はない…』そんな話をして退職される先生もおられるがよほどまじめに勤められたのであろう、私なんぞは生活の一部が学校であり、のんびんだらりとやってきたので今も勤められるのかもしれない、もう一つ、学校の様々な修理を率先して実行しているというのも学校で働く理由になるのかもしれない。

頼まれたものを作ったり直したりと授業より忙しいこともある、どの学校でもそうである。まあ、言ってみれば「便利な先生」で何かと頼まれることが多い。最近の大きな仕事は教壇作りである、カタログで調べると特別価格で1台8万2千円を超える値段である。私は、2台作って2万円とかかかっていない。学校の予算は乏しく、そんな程度の物は買うよりホームセンターで材料を調達し作った方がうんと安くなる。市教委は経費削減で私に感謝状出してもバチは当たらない。

こういう日曜大工的なことが趣味でもあり皆さんに感謝されるのだから楽しい職場でもある。結局のところ存在感・居場所があるということである。来年度も働く、しかし、常勤はもうけっこう、自分時間も欲しいので…。働かなくてもよい時代が早く来ないものかと思いつつながら。

## 巨匠たちと過ごした時間

河田 秀明

私は現在もフィリピンを根拠地にして、世界を旅する生活を過ごしています。昨年私が訪問した国、都市は、UAE のドバイ、中国のマカオ、ギリシャのアテネ、メテオラ、イタリアのローマ、フィレンツェ、ピサ、スペインのバルセロナ、マドリード、USA のハワイ島でした。それぞれの国の旅行記を書くと長大になりますから、今回はヨーロッパ旅行のことに少しふれます。ヨーロッパ旅行で私が楽しみにしていたのは、古代遺跡巡りと絵画鑑賞でした。アクロポリスの丘に、美しく輝き建つパルテノン神殿（アテネ）、人を圧倒する巨大なコロッセオ（ローマ）、世にも不思議な傾斜を保つピサの斜塔（ピサ）、重厚壮大なサン・ピエトロ大聖堂（バチカン市国）など。教科書や雑誌で何度も拝見してきたお馴染みの建造物ですが、



実物はやはり圧倒的な存在感がありました。さらに、それらの建造物に負けず劣らずの魅力を出すのが、巨匠と呼ばれる人達の絵画、芸術です。均整のとれた完璧な肉体美をもつミケランジェロ作「ダビデ像」（アカデミア美術館）。20歳の若さで、既に完成された技術をみせるレオナルド作「受胎告知」（ウフィッツ美術館）。黄金期のルネッサンス絵画を代表するラファエロ作「キリストの変容」（バチカン美術館）。考え抜かれた構図で見者を惹き付けるベラスケス作「ラス・メニーナス」（プラド美術館）。戦争の悲惨さを痛烈に物語るピカソの「ゲルニカ」（ソフィア王妃芸術センター）。絵画ではありませんが、圧倒的な独創性を誇り、今なお建設が進められているガウディ作「サグラダ・ファミリア」（バルセロナ）。こうした巨匠達の作品を間近に眺め、作品に込められたテーマなどに思いを馳せた時間は、まさに至福の時でした。今年、まず1月にインド、そして5月にアメリカのニューヨークを旅する予定でいます。



## 「日々是好日？ 怒日だなこりゃ」

曾我敬次

2008年に退職して丸10年がすぎようとしている。十年一日とはよく言ったものだ。10年前が昨日のここのように思える。この10年を振り返ってみると、退職したら日々是好日晴耕雨読だなど描いていた夢もまさに夢だった。まあ2、3年は好きなこともできたのだが、そうでないことに比べればそんなことは一瞬のことだった。コンサート・ライブ巡りに登山に読書。もう今はそんなことをしている暇はほとんどない。でもまだ夢は捨てたわけではない。いつか必ず復活を目指すぞと思っている。

さて何がそんなに夢を破ったか、そして好日どころではなくなったかという、まず退職した年2008年秋にリーマン・ショックがあった。退職金の一部を当てた借金のお金が利殖どころかマイナスに転じてしまった。まさにショックだった。人生に一発逆転はない。一攫千金を夢見るようなことは駄目だ。まさに人生は一步一步。こつこつと真面目に行くのが一番だと教えてくれた事件だった。

さてつぎの悪夢は、九条を巡る悪夢である。これが一番大きい。ご存じ亜米政権が復活してからの彼の悪事とはどまるところを知らない。九条改悪に向けて驀進中である。核戦争による世界の終末時計は2分前に迫ったと言われるが、九条改悪の時計はもはや1分前か30秒前ぐらいじゃないか。2015年夏から始めた「アベ政治を許さない」キャンペーンである街頭スタンディング。これまでに100回以上は街宣をした。まさか自分がこの年になってやるとは夢にも思わなかった。このごろは大体即興でやれるようになった。が、誰もが耳をそばだてて聞いてくるようなアピールにはまだまだである。しかし、とは言っても聞いてくれなきゃ困るといふか、少しでも何らかの反応が欲しいものであるが、道行く人の反応は冷たい。署名を頼んでもいやそうな顔をして通り過ぎる人が9割だ。何でこんなに冷たい。

昨年の年末に「ウーマンラッシュアワー」の村本大輔が政治ネタ満載の政治風刺漫才をした。最後に問題は何かとあって、「国民の意識の低さだ」「おまえたちのことだよ」といって喝采を浴び大きな話題になった。げらげら笑う文化に政治風刺を持ち込んだのはすごいことだが、最後の言葉が強烈に心に残った。あれを見ていた観客は、どう思ったか。げらげらで済む話じゃない。まさに「国民の意識」の低さといふか、無関心が今の亜米をつくり亜米を支えているのじゃないか。特に若い人たちの政治に対する意識はどうか。若い人ほど右翼的。リベラルという意味を逆に考えているらしいと新聞記事があった。運動を支えているのは年金者のじじばばかり。これからは、若者に食い込む努力もしながらじじばの逆襲をやっていこうと思う今日この頃である。

話は変わるが、40年ぶりぐらいに教え子の同窓会に呼ばれた。彼らもすでに60歳に近づいている。そこで語れと言うので言ったこと。「年寄りがやることはふたつある。ひとつは自分のことは自分で出来る自立をすること。ふたつは、孫・子どもに戦争の出来る国を残さないということだ」とくどくどと言ったのだった。以上

2018 年度の懇親会 & 総会 & 新入会員歓迎会は

**2018年5月17日(木曜日)**

今からこの日は空けておいてくださるようお願い申し上げます。

2018 年度の新入会員の予定は

畑 顕さん(可茂)

粥川歌子さん(中濃)

の二名です。他にも入会候補者をお気づきでしたら是非お知らせください。

☆2018年度は19年度の全国大会の件もあり、できるだけ多くの方の御参集をお願いしたく、最も交通の便が良い？ JR 岐阜駅周辺、会議も可能な居酒屋を考えています。

☆開始時刻が夕刻ですので、宿泊は各自でお願いしますが、希望される方には JR 岐阜駅周辺のビジネスホテルの予約が可能です。

☆会場の居酒屋 & ビジネスホテル共に、今からの予約はできませんので、4月末～5月初めの出欠確認の際にお知らせします。

☆出欠の確認は、同時期に電話で行います。

## 編集後記

ここ数年間は年に一度しか発行できなかつた会報ですが、今回会員のみなさんのご協力で、二回目を発行することができました。多くの近況や、投稿文を寄せてくださり、本当にありがとうございました。今年の冬は格別の寒さで、私は外出することが難しく会報の編集に専念することができ、おかげで何とか作り上げることができました。

『暑さ寒さも彼岸まで』と申しますので、この会報がみなさんの手元に届く頃には少しずつ暖かさも持ち直して来ているのではないかと予想しています。

みなさんそれぞれの健康法にてお元気でお過ごしください。

次は、5月の総会にてお逢いしましょう。

編集者代表 福島宣秋

追伸

OB 会費未納の方は同封の振込用紙にて送金下さいますようお願い致します。

- ・郵便振り込み：口座番号 00890-0-169959
- ・加入者名 : 岐阜県生活指導研究協議会OB会